

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり4.17人の報告がありました。昨年はお盆明けに増加に転じており、注意が必要です。手洗い、換気、マスク着用推奨場面(医療機関や高齢者施設等の訪問時)でのマスク着用、発熱等の体調不良時は外出を控えるなどの感染予防対策を心がけましょう。

2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり5.71人の報告がありました。多い状況が続いており、注意が必要です。(次ページ参照)

3 手足口病

定点当たり4.59人の報告がありました。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 腸管出血性大腸菌感染症

今年の累計は20件となりました。夏から秋にかけて報告数が増える傾向があるため、注意が必要です。感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょう。また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で手を洗いましょう。

定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	-	-	0.15		小児科	ヘルパンギーナ	2	0.12	0.34	
	新型コロナ(COVID-19)	121	4.17				流行性耳下腺炎	-	-	0.03	
小児科	RSウイルス感染症	11	0.65	1.09		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	咽頭結膜熱	1	0.06	0.21			流行性角結膜炎	-	-	0.36	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	1.06	0.61		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	28	1.65	1.71			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	1	0.06	0.11			マイコプラズマ肺炎	40	5.71	-	
	手足口病	78	4.59	1.02			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.01			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	突発性発しん	3	0.18	0.20							

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

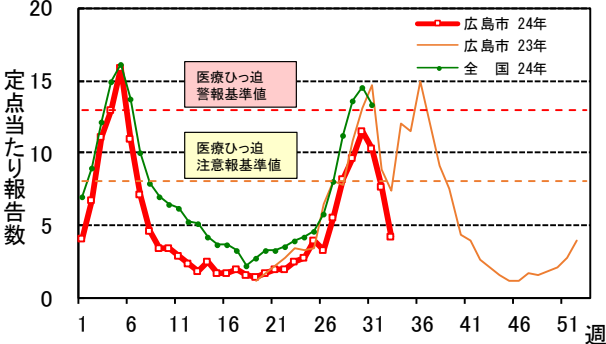
横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	29
小児科定点数	17
眼科定点数	7
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況



今週(第33週)は、お盆の休診により、報告数が影響を受けている可能性があり、前週(第32週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

全数把握感染症報告状況

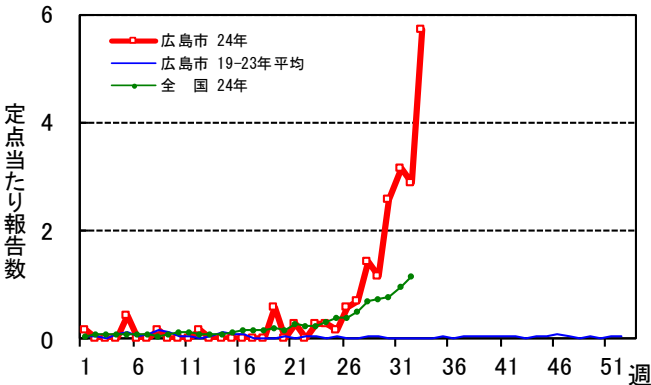
類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	71	40歳代・推定感染地域: 国外、70歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	4	20	30歳代・O157・市外・1人、30歳代・O26・1人、40歳代・O157・2人
4	E型肝炎	1	2	40歳代
5	梅毒	1	100	40歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	(C O V I D - 1 9) 新 型 コ ロ ナ 感 染 症	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎	(感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス))
報告数	広島市	第29週	8	336	30	7	37	80	1	562	-	5	20	-	-	2	-	-	8	-	-
		第30週	7	401	41	7	39	40	4	556	-	6	22	1	-	2	-	-	18	-	1
		第31週	6	361	27	9	39	43	6	386	1	5	15	-	-	3	-	1	22	-	-
		第32週	3	245	27	5	36	46	2	254	-	6	13	-	1	3	-	-	20	-	-
		第33週	-	121	11	1	18	28	1	78	-	3	2	-	-	-	-	-	40	-	-
定点 当 た り	広島市	第29週	0.23	9.60	1.36	0.32	1.68	3.64	0.05	25.55	-	0.23	0.91	-	-	0.25	-	-	1.14	-	-
		第30週	0.20	11.46	1.86	0.32	1.77	1.82	0.18	25.27	-	0.27	1.00	0.05	-	0.25	-	-	2.57	-	0.14
		第31週	0.17	10.31	1.23	0.41	1.77	1.95	0.27	17.55	0.05	0.23	0.68	-	-	0.38	-	0.14	3.14	-	-
		第32週	0.09	7.66	1.35	0.25	1.80	2.30	0.10	12.70	-	0.30	0.65	-	0.13	0.38	-	-	2.86	-	-
		第33週	-	4.17	0.65	0.06	1.06	1.65	0.06	4.59	-	0.18	0.12	-	-	-	-	-	5.71	-	-
	全国	第31週	0.39	13.30	1.75	0.43	2.03	2.80	0.16	9.57	0.11	0.27	1.70	0.03	0.02	0.53	0.02	0.04	0.95	-	0.01
		第32週	0.38	10.48	1.45	0.42	1.84	2.70	0.15	7.89	0.15	0.26	1.30	0.04	0.01	0.43	0.03	0.05	1.14	-	0.02

【参考】マイコプラズマ肺炎について

マイコプラズマ肺炎の流行状況



マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。小児や若い人の肺炎の原因として、比較的多いものの一つです。

患者は年間をとおして見られますが、秋から冬にかけて多くなる傾向にあります。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行し始めた2020年から2023年までは、低い水準で推移していましたが、今年は、全国的に報告数が増加していますので、注意が必要です。

主な症状は、発熱や全身の倦怠感(だるさ)、頭痛、せきなどの症状がみられます(せきは少し遅れて始まることもあります)。せきは熱が下がった後も長期にわたって(3~4週間)続くのが特徴です。

肺炎マイコプラズマに感染した人の多くは気管支炎で済み、軽い症状が続きます(一般に、小児の方が軽症で済むと言われています)が、一部の人は肺炎となったり、重症化したりすることもあります。また、5~10%未満の方で、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。

感染経路は、飛沫感染と接触感染です。手洗い、咳エチケット、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

【参考】マイコプラズマ肺炎(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/mycoplasma.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp